

東二よつばの会アンケート集計結果（アンケートのまとめ）

アンケート回収率： 14名/27名中（51.8%）

東部第二高齢者相談センター、新座市社会活動協議会

① 現在のコロナ禍の生活の中で、どのような困りごとがありますか？また、工夫をしたこと等ありますか？

【困りごと】

- ・色々な活動（町内会）がストップしたままになっている
- ・特に困りごとはありません
- ・困っている事は何もない
- ・私も含め高齢者の方が体を動かす機会が少なくなった
- ・人と会話する事も減っている
- ・子供（小学生）達が学校自粛休講となり、親（特に母親）の生活様式が変わり、対応出来ない親達を何人も見かける
- ・学童保育のさらなる充実、近隣大人達（元気なシニア）の支え
- ・コロナがこんなに長くなるとは思わなかった。まだまだ続きそう。
- ・気軽に友人と会えない
- ・高齢者に必要なことは「教養・教育」と言われていたが、ここに来ていきなり「ステイホーム（出るナ）」と言われている
- ・現在は価格も落ち着いているがマスク不足に悩まされた

【工夫をしたこと】

- ・特に工夫したことはない
- ・自分もコロナにかかっているかもしれないという気持ちで他にうつさないため、マスクは必ず付けて話をしている
- ・この状況下では、個々が自覚して気をつけるしかないのではと思っている
- ・三密を避けるため、諸会議の開催が困難な状況であり、テレワーク等を駆使して可能な役員間、会員間での情報交換に務めている
- ・経済的な面で、LINE等を利用して活動している（パソコン）
- ・毎日三食作り、その間に趣味をして、退屈なく過ごしている
- ・「三密」をさけ静かに過ごしている
- ・歌を唄う等して毎日元気に過ごしてい。
- ・家族から「パソコンを教えて…」と頼まれ、自分の一番初めに使った「ウインドウズ95」をしている
- ・生活がマンネリ化しやすいので規則正しい生活を心掛けている
- ・若い人と高齢者ではおのずと行動が違って来る。不要不急の外出を控えることは、まず高

齡者からと思う

- ・自分を守ることが他人を守る事になると思うが、フレイルを予防することは必要である
- ・情報を集める方法がネット中心になってしまう（不安な情報も多い）
- ・テレビからの情報を受け止め、必死に「マスク着用」「ソーシャルディスタンス」に努めている
- ・トイレトーパーなど生活必需品が手に入らなくなる危機を経験したことで、今後を見据えて生活していくことを考えさせられた

② 3密を避ける、マスクの着用、ソーシャルディスタンスをとる、といった「新しい生活様式」の中で、どのような活動ならできそうですか？（集まらずにできることや協議体や地域でできることのアイディア等）

【集まらずにできること】

- ・電話で安否確認をする
- ・IT等を駆使する
- ・ボケ防止のために折り紙をしている
- ・個々のボランティア的活動
- ・オンラインを活用し、リモート茶話会・体操会・会議など

【地域や協議体でできること】

- ・わかりません
- ・高齢者の方にお弁当を配る
- ・困りごとを受け付けて出張対応する
- ・新しい生活様式の環境の中で「東二よつばの会」の運営方法の変化が求められる
- ・協議体（圏域）に寄って、グループLINE（もしくはメール）等で活動を共有して見てはどうか？
- ・「あの人どうしているかしら…」と電話をしてみる、「散歩の途中でどうしているかとチョコッと寄ってみた」等のメモをドアに差し込むような「余計なおせっかい」をすること

【やっていること、アイディア等】

- ・手芸や塗り絵等の見本付きで欲しい人に配っている
- ・色々な情報をお便りにしてポストインする
- ・家の中で一つ出来る事、また外で出来る事をする
- ・毎週火曜日に新座市（体育館）グループで「ラケットテニス」「卓球」を行っている
- ・週に4～5回は早朝散歩、4時半～約1時間、約4km、歩数で6500歩、平林寺の総門でお参りをしている

- ・運動と脳トレの為、平林寺の要所要所に問題をおき、それらを解きながら二人組でウォーキングしている
- ・電話や文書等で励まし合ったりしているが、これも限られた間柄でのこと
- ・同封されていた『「新型コロナウイルス感染症」高齢者として気をつけたいポイント』のようなチラシを是非地域の高齢者全員に配って欲しいと思う

【意見】

- ・予算のない協議体でできることは何？
- ・年配の方が多いので、メール等の使用も難しいのではないか
- ・(コロナが) 鎮まるまで待つことが良いのではないか
- ・私達高齢者は、ワクチンや確かな薬等が作られない限り活動は難しいと思う
- ・コロナ禍での活動はかなり難しいと思う
- ・「思いやり」や「支え合い」は思っているだけでは何の役にも立たず、行動に移してはじめて成り立つものという認識です

③今後、東二よつばの会でどのようなことをしたいですか？（方向性やテーマ等）

【方向性やテーマ】

- ・密にならず外で何かできることを考えている
- ・高齢者に対する見回り活動で、会の主旨の一部は叶えられるのではないか
- ・会としての全員参加は、様式変換を強いられることから、一部の会員・参加者に限定されるが、新様式への方向転換が必要と考える
- ・色々あると思うが、皆さんで出来る事があればよいと思う
- ・室内の会議ではなく外での研修等、他の地区との意見交換等
- ・チラシに工夫して（カラーで大きく読み易く等）いただければ、目を通すと思う。ポスティング等は協力する

【意見】

- ・どうでしょう？わかりません
- ・特にありません（分かりません）
- ・東二よつばの会は急いで何かをしようと言う会ではないので、コロナが完全におさまるまで静観していた方が良いのではないかと思う
- ・支援センター等に出前講座を行い、参加者自身も協議体の理解を深めながら、近隣の方への周知を行っていきたい

④その他（現在の状況等）

- ・自粛前とそう変わらない生活でしたが、自粛の影響を受ける所は大変だと思う
- ・なんとか早く終わって欲しいものです
- ・医療関係者にもっと理解をと常に思っている。自分の命とひきかえに治療に当たってくれている。
- ・地域で関わっていた活動がほぼ中止になって自分中心の生活になった。私の場合、実母の専属ヘルパーのような生活になってしまい、それはそれでリズムもできつつあるので、母に喜ばれている。
- ・コロナ禍の生活で、様式の変化を余儀なく求められて来た
- ・この生活様式がある程度定着しつつある現状を直視して、新たな IT 関係を駆使した、利用した新様式に移行を模索する必要があると考える
- ・皆さんのアンケートも教えて欲しい。私もこれからの人生に参考にしたい。
- ・外出もできず会合もないのでお金を使う事もなく、静かにすごしている
- ・寝転んで「スマホ」弄り（果報は寝て待て）の気分で食後は必ず20～30分横になる
- ・暇さえあれば歌を歌っている。最近仕入れてよく唄ってるのは「人生の並木道」「母を思えば」「今日と言う日に感謝して」「船頭小唄」「男のうそ」等。
- ・不得手な事にチャレンジしながら日々を過ごしている
- ・日頃出来なかった事などで家でやれること、チャンスと捉え楽しみに乍らやっている。
- ・片付け、読書、マスク作り等、一人散歩が増えた
- ・地域の方に出会うので様子が分かる
- ・マンション住まいは近所付き合いは煩わしいと思う人の集まりなのかなと思う。コロナになってそれに輪をかけて人に会うことが皆無になった気がする。
- ・現在、子育て支援センターつぼみは、人数制限をかけた入居前に手洗いや消毒や検温等の協力をいただいてから利用をお願いしている。一枠で6組まで、1時間のご利用。一枠の利用終了ごとに消毒や掃除を徹底している。
- ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、2月から東二よつばの会の開催を中止している。
- ・新座市の様々なイベントや会議も中止となっている状況。
- ・協議体としては7月に西部圏域協議体が開催されたが、その他の圏域の協議体は中止となっている。8月の協議体は全圏域で中止となった。9月から協議体の開催を予定している圏域や7月からオンライン会議（リモート会議）の練習を（できる環境にある方と）している圏域もある。
- ・多くのイベントや会議、サロンや体操、サークル活動等が中止になっているが、体操の自主グループの制限された条件下で少しずつ活動を再開する動きもみられる。
- ・活動中止という中で、高齢者では精神低下や活動の低下でフレイルの状況になっている方もおられる。
- ・参考として、福進協も各地区ともイベント等の活動は中止。委員だけの会議については、北二と南部では定期的に行っている。北二については外遊びや相談窓口の活動は定期的に

行っている。東二は7/9（木）に第三庁舎の大会議室で事務局会議を行い、今年度中の活動を全て行わないことを決めた。

皆さま、アンケートのご協力ありがとうございました。

このアンケートの集計結果を元にコアメンバー（高齢者相談センター、社会福祉協議会、生活支援コーディネーターの各担当者）会議を行い、「東二よつばの会」の今後の進め方等の案を考え、皆さまに伝えさせていただきます。

今後ともよろしく願いいたします。